

神経性食思不振症

定義

- 1, カロリー制限による体重減少
- 2, 肥満恐怖もしくは体重増加を妨げる行為の持続
- 3, ボディーイメージのゆがみと低体重についての病識の欠如

特徴

10～19才に多く 40才以上は稀で90%が女性。

上記に加えて「期待される体重の85%以下の体重」かつ「無月経」で診断

症状

無月経・便秘・低体温・低血圧・徐脈・脱水・末梢循環障害・低体温・毛髪脱落・産毛・浮腫など

検査異常

低カリウム血症などの電解質異常・肝機能障害・総コレステロール上昇・低血糖・血球減少・甲状腺ホルモン・骨密度減少

やせの程度による身体状況と活動制限の目安

標準体重	身体状況	活動制限
55%未満	内科的合併症の頻度が高い	入院による栄養療法の絶対適応
55～65%	最低限の日常生活にも支障がある	入院による栄養療法が適切
65～70%	軽労作の日常生活にも支障がある	自宅療養が望ましい
70～75%	軽労作の日常生活は可能	制限つき就学就労の許可
75%以上	通常の日常生活は可能	就学就労の許可

当院での流れ (例)

- ・近所のクリニックで紹介状をもらい受診 (小児科宛)
- ・受診時に血液・尿検査と問診。必要に応じて精神科紹介受診。
- ・必要に応じて入院加療 (精神科医師、小児科医師のみならず栄養士・心理師・看護師がタッグを組んでしています)